

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会を生き抜く力」を育み、地域に生きる学校づくり ー活気ある生徒の育成ー

生徒が学びと努力の積み重ねの大切さに気づき、社会の一員として地域社会に貢献する意識にめざめる教育を、全日制総合学科として実践する。

- 1 「基本的な生活習慣」の確立と「規範意識の醸成」を行い、学びの習慣の大切さを気づかせる。
- 2 「働くことの意欲」を醸成し、学びの大切さに気づかせる
- 3 安全で安心な快適な学校づくり

2 中期的目標

1 「基本的な生活習慣」の確立と「規範意識の醸成」

(1) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上に向け、授業規律の確立と授業ルールの順守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせていく。

- ・「基本的な生活習慣を確立」させて、基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上に向け、「授業力」の改善をおこなう。
- ・「規範意識の醸成」に努めて、授業規律の確立と順守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせていく
- ・本校生徒の現状を把握して「わかる、楽しい、魅力ある」授業の創造と実践につとめる。
- ・1年次の「かんたん工業」など特色ある科目で興味づけを行い、生徒の授業定着を図る。
- ・生徒一人ひとりが、望んだ進路目標に到達できるように「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きること」の大切さを理解させ、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を推進する。

(2) 生徒会活動・ボランティア活動・地域貢献の活性化

- ・社会の一員として他人のために役立つという意識の育成に向け、地域における活動やボランティア活動への参加を奨励する。
- ・地域イベントに生徒を積極的に参加させ、成果の発表を通じて自己有用感や自尊感情を高める体験をさせる。
- ・クラスマッチ・文化祭など学校行事が、教員主導型から生徒の自主的活動（生徒会など）を中心としたものになるよう改善を図る。

2 働く意欲の育成と系統的なキャリア教育の確立

(1) キャリア教育を充実させ、職業観を育成する。

- ・生徒が自己の進路を主体的に選択し、将来にわたって自己実現をはかることを目的とした計画をたて、三年間を見通したキャリア教育（職業観・勤労観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ）を積極的に進める。
- ・教科学習はもとより、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、ホームルーム活動などあらゆる教育活動が生徒自身の自己発見の機会となるようにする。
- ・進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供し、さらに適性検査等を取り入れて、自己の適性や能力を発見させるように努める。

(2) 情報伝達・処理・応用力の重要性への気づきから、生涯にわたる学びの大切さ、表現力の大切さに気づかせる。

- ・登下校時や校内の当番で「声かけ」や「挨拶」を励行しながら、お互いの人格の尊重を自覚させるとともに、仲間意識の高揚に努める。
- ・「わかる授業」の展開や、すべての教育活動を通じて成功体験を多く積ませ、「自己有用性」を育成することにより、何事にも前向きに取り組む姿勢や向上心を育む教育を推進する。また、人権教育に取り組み、「他者との違い」を豊かさにして、「共に生きる」姿勢は、良き社会人として欠かせない資質であり、あらゆる機会を活用して指導する。

3 安全・安心・快適な学校づくり

(1) 生徒の健康管理と教育相談の充実

- ・学校生活を通して、生徒の自主的な保健活動の必要性を認識させ、自ら健康生活を実践する習慣、態度を培うため、生徒保健委員会の活動を促し、指導する。
- ・教育相談委員会と保健室・学年との連携を密にし、悩みを持つ生徒の把握に努めるとともに、適切な対応・助言をおこなう。

(2) 学校の危機管理意識と施設設備の改善

- ・生命の尊重、安全についての認識を深め、日常生活において安全に留意する態度、習慣を身につけるよう安全学習及び実践的な指導を行う。
- ・日常の巡視、施設・設備の安全点検を行い、危険箇所の早期発見、改善により事故防止につとめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・「学校に行くのが楽しい」「勉強はよくわかる」は、1年生・3年生で向上したが、2年生でポイントが伸びなかった。2年生「そう思わない」「まったく思わない」が52.5%。授業定着ができるようになったが、積極的な取り組みができるよう授業改善を行い、興味関心をひく授業に取り組む。</p> <p>・「学校生活についての先生の指導は納得ができる」1年生43.1%、2年生44.6%、3年生48.5%と昨年度から7%向上して「まったく思わない」が1年生では8%になった。丁寧な生徒指導によって信頼関係や学習環境を整えていく。</p>	<p>第1回学校協議会 7/26・昨年度の総括の上に立って生徒指導体制の改善、中学校訪問、広報活動（HP）などの学校経営と状況を報告。進路指導において幅広い求人開拓と学校就職斡旋に取り組む。生徒指導面では丁寧な指導に生徒との信頼関係を築くなど協議を行った。</p> <p>第2回 11/14文化祭 ・昨年度の協議会では、生徒が、生き生き活動できる場所を積極的につくることという指摘をうけて、協議会委員に文化祭の生徒活動を観察。中庭、体育館前での新たな取り組みを紹介。</p> <p>第3回 27年 2/7 ・学校教育自己診断（生徒中心）で授業定着に向けた取組み（メロディチャイムや実技科目への参加など）が評価された。中退率や懲戒件数の減少（4割減）、就職内定率の向上（2割増）も今年度以上に改善できるように期待された。生徒が様々な場面（文化祭や出前授業・地域ボランティア行事等で主人公になり活躍できる場をつくることを強調された。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																					
実社会で役立つ学力の育成	(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ・生徒指導の在り方 ・保護者との連携 (2) 基礎学力の充実 学ぶ意欲の向上と授業定着 ・授業力の向上 (3) 課外活動の活性化 ・クラブ活動の活性化とボランティア活動の充実 ・地域イベントの参加	(1) 生徒指導 ・少人数クラス編成（1年次6クラス9展開）によって生徒一人ひとりにきめ細やかな教科・生徒指導をおこなう。 ・生活規律に乱れのある生徒に対しては、保護者懇談、家庭訪問により保護者と連携しながら改善されるまで粘り強く指導するとともに生徒の置かれている生活背景（中学校との連携）などを組織的に把握し、学校全体で情報共有しながら生徒との信頼関係を築く。 ・公開授業、保護者参観を行い、家庭連携を図る (2) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上 ・1年次に少人数クラス展開を行い、基礎学力の定着を行う。 ・生徒の興味・関心を引く授業計画、教育課程を組み、授業定着を図る。 ・授業アンケートなどを活用し、教員の「授業力」の向上を図る。 (3) 課外活動の活性化 ・生徒会を中心にクラブ紹介・入部活動やボランティア活動を積極的に取り組む。 ・ものづくり系列など、授業で制作した成果物発表などで地域イベントに参加する。	(1) 生活習慣と授業規律の確立 ・1年生の欠席者数の10%減少 ・長欠生徒の減少、前年比10%増 ・授業の欠課・遅刻件数を下げる。 (2) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上 ・学校自己診断の授業満足度を10%向上する。 ・進級率の10%向上 ・生徒授業評価の向上 (3) 課外活動 ・クラブ入部率5%上昇 ・おそうじボランティアの参加者数を10%増化。 ・地域イベントへの参加や出前授業、出品機会を10%増やす。	(1) 生活習慣と授業規律 1/9 <table border="1" data-bbox="1633 329 1944 620"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退学</td> <td>35</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>不登校</td> <td>130</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>欠席総数</td> <td>12153</td> <td>10728</td> </tr> <tr> <td>遅刻総数</td> <td>23090</td> <td>19538</td> </tr> <tr> <td>懲戒総数</td> <td>105</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>懲戒件数</td> <td>123</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> ・中学校訪問や個別面談など丁寧な指導によって向上した。 ○ (2) ・生徒授業評価は、各教科の「授業が楽しい、興味関心がもてた」の評価は向上したが、自己診断の授業満足度は、1年3年では伸びたものの2年生35.3%と落ちこんだ。 △ ・進級率は、1年生7割、2年生8割で例年と変わらなかった。 △ (3) ・生徒会の積極的な取り組みが見られ、運動部や文化部の活躍が見られた。 ○ ・地域奉仕の活動も軌道に乗り、自己診断の評価が4%向上・初めて出前授業もを行い、広報活動を推進した。 ○		H25	H26	退学	35	22	不登校	130	113	欠席総数	12153	10728	遅刻総数	23090	19538	懲戒総数	105	86	懲戒件数	123	60
	H25	H26																							
退学	35	22																							
不登校	130	113																							
欠席総数	12153	10728																							
遅刻総数	23090	19538																							
懲戒総数	105	86																							
懲戒件数	123	60																							
働く意欲の育成と系統的なキャリア教育の確立	(1) キャリア教育の充実 ・講演など外部人材の活用 ・1年次から系統的な実施計画 (2) 進路意識の向上 ・意識啓発 ・実践指導	(1) 「キャリア教育・職業教育」の充実 ・外部講師によるガイダンスや講演を進路意識の啓発に活用する。 ・地元企業の協力を得て、イベントや授業で技術指導や講話を受ける機会を増やす。 ・1年次「かんたん工業」の授業で「ものづくり」の大切さに気づかせ、キャリア教育・職業教育を推進する。 (2) 進路指導 ・就職活動に求められる基本的な礼儀や言葉遣いを身につけさせる。 ・社会では情報伝達・処理・応用がいかに重要であるかに気づかせ、言語表現力を伸長する。 ・インターンシップ、資格取得の参加を促し、進路に向けた動機づけを行う。	(1) キャリア教育・職業教育 ・学校教育自己診断の生徒、保護者の進路説明・理解満足度の向上。 ・生徒の進路未定率5%低下 (2) 進路指導 ・学校斡旋による就職希望者率を5%向上。 ・面接指導の徹底と情報伝達力の向上 生徒個人の指導回数を3から5回 ・就職内定率の前年比5%上昇 ・インターンシップ、資格取得者の増加	(1) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」は3年生が47.0%と高い肯定評価をしたが、「家の人は学校のことをよく知っている」33%と肯定評価が低い。一方、「先生は子供の評価を適切・公平に行っている」について保護者は72%の肯定する評価を得た。 メール便、保護者懇談や家庭訪問を通じて進路情報を提供していく。 △ (2) 進路状況 1/9 現在 <table border="1" data-bbox="1633 1694 1944 1944"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学</td> <td>5</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>短大</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>専修学校</td> <td>24</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>就職内定</td> <td>46</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>未定</td> <td>38</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> 昨年より向上した ◎		H25	H26	大学	5	11	短大	3	3	専修学校	24	29	就職内定	46	71	未定	38	38			
	H25	H26																							
大学	5	11																							
短大	3	3																							
専修学校	24	29																							
就職内定	46	71																							
未定	38	38																							
安心・安全・快適な学校づくり	(1) 健康管理と教育相談の充実 ・学校保健委員会の活用 ・教育相談 (2) 危機管理と安全・安心な学校づくり (3) 施設設備の改善	(1) 健康管理 ・年2回開催する学校保健委員会により生徒の健康管理の大切さを啓発する。 ・教育相談活動を全体化し、より機動性が発揮できるよう改善する。 (2) 危機管理と安全で安心な学校 ・緊急時に教職員がとるべき行動をより明確化し、周知徹底する。 ・人権計画、学校保健・安全衛生の計画を策定して、安全・安心な学校づくりを徹底する。 ・生徒や保護者に相談窓口を周知する。 (3) 校内環境 ・トイレなど施設設備の改修工事を計画的に進め、生徒にとって快適な施設環境を整える。	(1) 健康管理 ・生徒保健委員会の健康保持活動と保健便りによる心と体の健康意識の向上。 ・各外部機関との連携を図り、欠席・長欠生徒の減少。 (2) 危機管理と安全で安心な学校 ・避難訓練を年2回実施し、避難時間の短縮を図る ・消防署と連携したAED講習会（教員・生徒）の実施 ・学期に2回程度の人権・教育相談など職員研修を行い意識を高め、懲戒件数を減らす。 ・メール便を活用し、相談窓口を周知することで連携強化し、学校教育自己診断の学校情報周知の数値を増加。 (3) 校内環境 ・施設満足度前年比10%以上	(1) ・生徒保健委員会を文化祭前に行い、文化祭の取組み、準備を行わせた。 ・保健便りのもとより、保健室前に啓発ポスターや板書を掲示して健康管理を促した。生徒の健康及び安全を確保するために和泉、岸和田福祉課、子ども家庭センター堺子ども相談など、各所轄の警察と連携した。 ◎ (2) ・880万人防災訓練など取組みを行った。またAEDの講習会を独自に行えるよう指導員の養成を行った。 ○ ・教育相談に関わる生徒の周知に努め、見守る体制が築かれている。 ○ ・学校の情報伝達についてメール便以外の方法を模索する必要がある。 △ ・学校の校門、天井の雨漏り、夜間照明と今年度に改築。体育館舞台の照明、男子更衣室の設置、バスケットゴールの改修ができるが、懸案のトイレの改修ができなかった。 △																					